

第10回トウキョウサンショウウオ シンポジウム

2008年2月23日(土)

東京都立多摩社会教育会館 鑑賞室

所在地 〒190-8543 立川市錦町 6-3-1 (東京都多摩教育センター内)

電話：042-524-7950 FAX：042-522-0719

1999年より開催されてきたトウキョウサンショウウオ・シンポジウムは、毎年全国より多数の研究者・保全活動家・ファンが集まって情報交換できる貴重な場として回を重ね、今年でとうとう10回目をむかえました。1998年の調査から10ぶりの多摩地区全域での一斉調査を控えて、トウキョウサンショウウオのこの10年をあらためて振り返り、今年行われる調査を少しでも有効で効率的なものにしたいと考えています。そこで、今回は主催者側で用意したテーマに沿った講演を聞いてもらう形式ではなく、どちらかと言うと、参加者の皆様が日頃感じている疑問・課題やご自身の体験を自由に出し合い議論する形式を企画しました。3つの話題ごとに参加者の皆さんに集まっていただき議論してもらいます。何かまとまりの有る結論を出すことよりも、自由に意見や情報を交換してもらい、今後の各自の各地域での保全活動に少しでも参考となればと思います。ひとりでも多くの方の参加を期待しています。

主催／トウキョウサンショウウオ研究会

事務局(川上洋一)：東京都あきる野市平沢 473-6 Tel&FAX 042-550-0265 問い合わせ先：

草野(首都大・理工・生命科学) Tel 042-677-1111 (内線 3761)

<http://homepage2.nifty.com/tkusano/salamander/index.html>

プログラム

- 13:00 開場
- 13:20 開会 (司会：塩谷暢生)
- 13:30 講演 草野 保(首都大・理工・生命科学)「トウキョウサンショウウオ
の今：この10年を振り返って」
- 14:10 休憩及準備
- 14:20 トウキョウサンショウウオに関するテーマ別の議論
 - 開発の問題と保護 話題責任者：川上洋一
 - 外来生物(アライグマ)問題と対策 話題責任者：金田正人
 - 生息環境の保全活動 話題責任者：五味 元
- 15:40 休憩
- 15:50 総合討論
- 16:20 連絡・後片付けなど
- 16:30 閉会(閉会後に懇親会を予定しております)



「トウキョウサンショウウオの今：この10年を振り返って」

草野 保(首都大・理工・生命科学)



- I. トウキョウサンショウウオの紹介
 - 分類学および保全上の位置付け
 - 生息分布と地域集団の遺伝的關係
 - 生活史概略
- II. 多摩地区における生息状況
 - 各地区の生息状況
 - 日の出町での繁殖個体群の長期的動態
- III. 保全活動の一例
 - 川口町でのビオトープ整備
 - 八王子市南大沢での移植とその後の定着過程
- IV. 今後の保全上の課題
 - 気候温暖化の影響
 - 外来種問題

サンショウウオ類は12種が
絶滅危惧種に

両生類のレッドリスト(環境省)
(2006年12月改訂)

絶滅(EX)

野生絶滅(EW)

絶滅危惧ⅠA類(CR)

■アベサンショウウオ

絶滅危惧ⅠB類(EN)

■アカイシサンショウウオ

■ハクバサンショウウオ

■ホクリクサンショウウオ

●イシカワガエル

●オットンガエル

●コガタハナサキガエル

●ナゴヤダルマガエル

●ホルストガエル

●ナミエガエル

絶滅危惧Ⅱ類(VU)

■オオイタサンショウウオ

■オオダイガハラサンショウウオ

■オキサンショウウオ

■カスミサンショウウオ

■トウキョウサンショウウオ

■ベッコウサンショウウオ

■オオサンショウウオ

■イボイモリ

●アマミハナサキガエル

●ハナサキガエル

●ヤエヤマハラブチガエル

準絶滅危惧(NT)

■キタサンショウウオ

■クロサンショウウオ

■ツシマサンショウウオ

■トウホクサンショウウオ

■ヒダサンショウウオ

日本のサンショウウオ類

止水繁殖

サンショウウオ科

18種

溪流繁殖

1. キタサンショウウオ
2. エゾサンショウウオ
3. トウホクサンショウウオ
4. **トウキョウサンショウウオ**
5. ホクリクサンショウウオ
6. アベサンショウウオ
7. ハクバサンショウウオ
8. クロサンショウウオ
9. カスミサンショウウオ
10. オオイタサンショウウオ

11. ツシマサンショウウオ
12. オキサンショウウオ
13. ブチサンショウウオ
14. **ヒダサンショウウオ**
15. ベッコウサンショウウオ
16. オオダイガハラサンショウウオ
17. アカイシサンショウウオ
18. **ハコネサンショウウオ**

イモリ科

1. **アカハライモリ**
2. シリケンイモリ
3. イボイモリ

オオサンショウウオ科

1. オオサンショウウオ

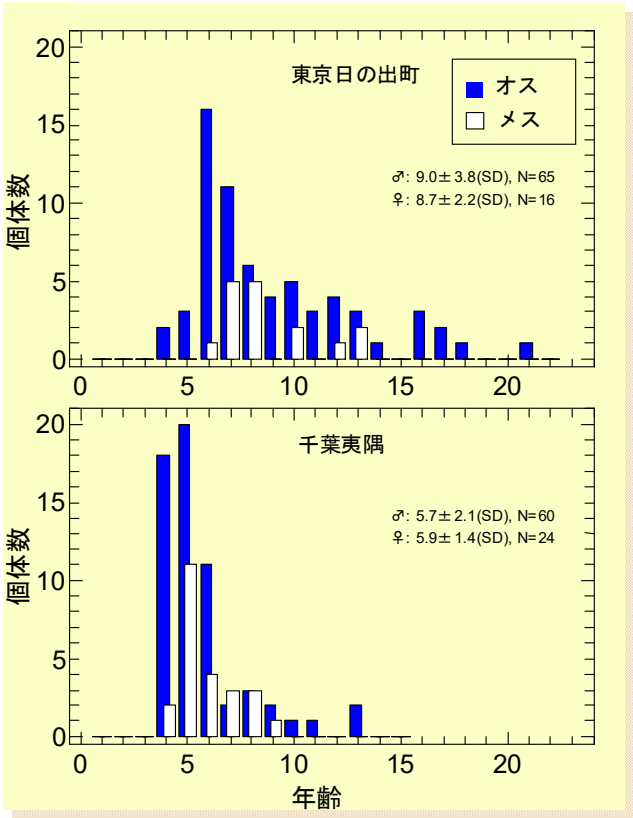
両生類減少の有力で立証された要因

(Young et al., 2001より)

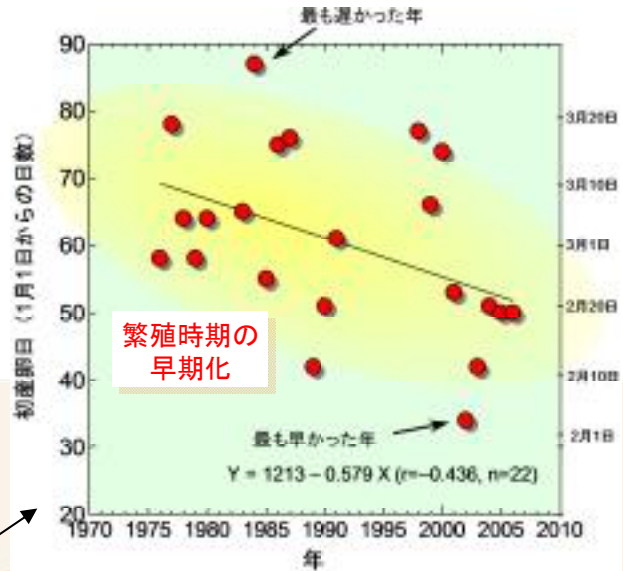
要因	過程
生息地の破壊・変更・分断化	道路、移入種や他の要因により、残された個体群がお互いに分断され隔離される。
移入種	外来の種が在来種を捕食したり、資源を巡り競争関係になる。
過剰な採集	野生個体を採集し、食物・ペットや医学・生物学の材料として国際的に取引される。
気候の変化	両生類は温度や湿度のわずかな変化にきわめて敏感である。地球規模の気象パターンの変化(エルニーニョや地球温暖化など)は、繁殖行動を変え、繁殖成功に影響を与え、免疫機能の低下を招き、そして化学汚染物質へ感受性を高める。
紫外線(UV-B)	大気中の紫外線(UV-B)レベルはこの数十年で有意に上昇した。研究者は、紫外線は直接両生類を殺せるだけでなく、成長の遅れ、免疫機能の低下のような亜致死性の効果を生じ、汚染物質・疫病・気候変動と相乗的に作用することを明らかにした。
化学汚染物質	殺虫剤・重金属・酸性化・窒素主体の化学肥料などの化学有害物質は、両生類に致死性・亜致死性、直接または間接的な影響を与える。これらの効果には、成長の減速、発生的・行動的な異常、繁殖失敗の増加、免疫システムの弱体化や雌雄同体現象などを含む。
病気	新しい様々な病気の発生は、病気への抵抗力が弱まった両生類にとって、成体や幼生の死につながる。
奇形	両生類の自然個体群では、近年奇形が増加し、世界中に広まり、重要な環境問題として認識されるようになった。
相乗作用	複数の要因の相乗効果として、死亡や亜致死性の効果を生じる。



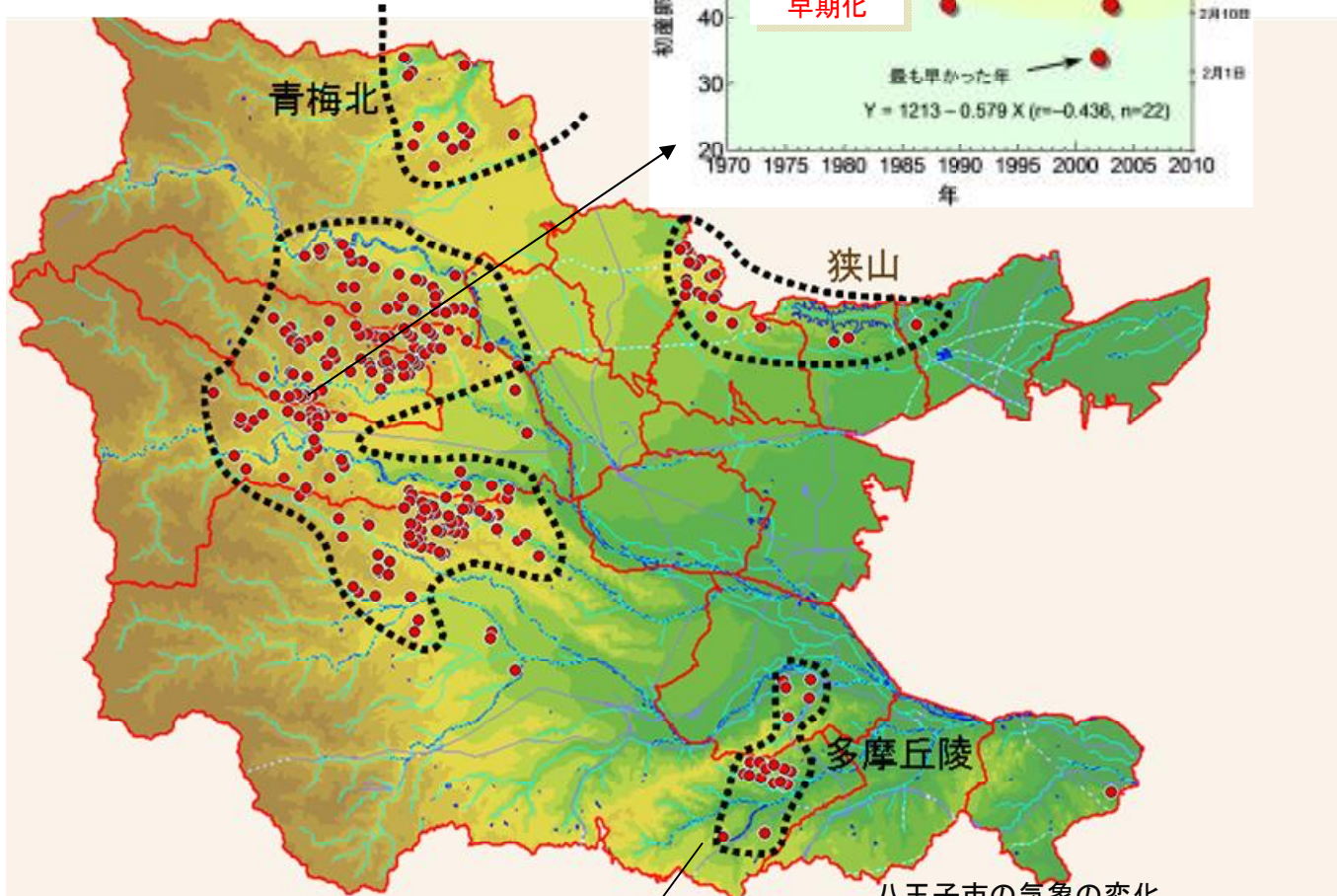
トウキョウサンショウウオの年齢分布



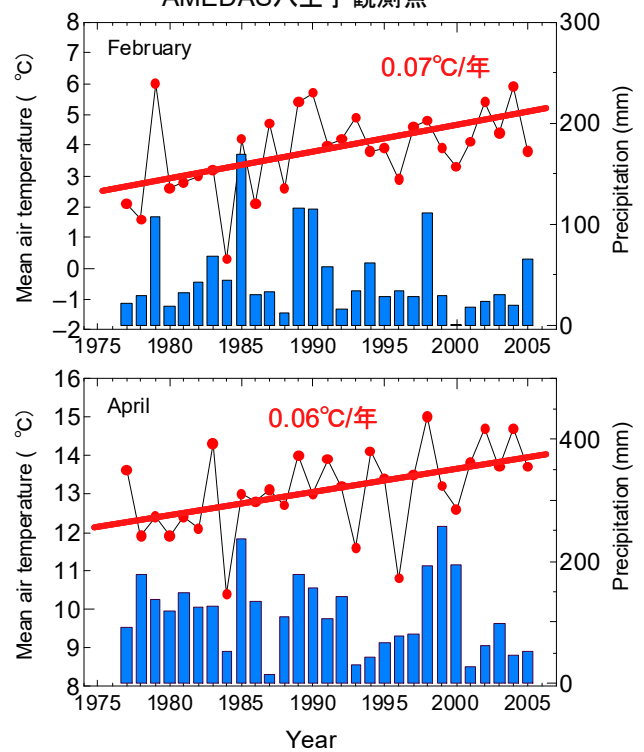
日の出町羽生におけるトウキョウサンショウウオの
初産卵日の長期的な年変化



多摩地区における産卵場の分布



八王子市の気象の変化
AMEDAS八王子観測点



南大沢イモリ池における両生類の初産卵日
の長期的な年変化

